

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 22 日現在

機関番号：33918

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）

研究期間：2018～2020

課題番号：18KK0057

研究課題名（和文）高齢者の社会的孤立の健康影響の国際比較研究

研究課題名（英文）International comparative study about the difference in health impacts of social isolation among the older adults

研究代表者

斉藤 雅茂（SAITO, Masashige）

日本福祉大学・社会福祉学部・准教授

研究者番号：70548768

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,500,000円

研究成果の概要（和文）：社会的孤立は「健康の社会的決定要因」の1つともいわれている。JAGESとELSAという日英の高齢者を対象にした大規模疫学調査データを用いて、1.孤立状態に陥る高齢者の基本属性、2.高齢者の社会的孤立が死亡や健康状態へ及ぼす影響、3.社会的孤立によって健康喪失した高齢者数、等で比較検討した。本研究の結果、日英で共通して、高齢者の社会的孤立が抑うつ傾向や喫煙、口腔衛生、早期死亡に関連していること、日本社会では孤立しがちな高齢者が顕著に多いため、深刻な孤立状態による早期死亡が年間1.8万人程度に及ぶこと（英国では1800人程度）等が確認された。社会的孤立対策の推進が必要であること等が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

英国政府では社会的孤立や孤独による国の経済的損失が年間320億ポンド（約4.9兆円）に上ると推計している。日英で孤立しがちな高齢者の特性には相違はないが、日本社会は孤立しがちな高齢者が顕著に多いこと、孤立状態による早期死亡のインパクトは英国よりも大きく、社会的孤立対策の推進が必要であることなどが示唆された。本研究を通じて、8本（うち、査読付の国際誌6本）の論文を発表することができた。日英の大規模コホートデータの比較研究の基盤を整備し、研究成果を発信できたことの学術的意義も大きいと思われる。今後、英国の動向を見つつ、さらなる研究を進め、社会的孤立の予防・軽減にむけた社会環境要因の探求を図りたい。

研究成果の概要（英文）：Social isolation is one of social determinants of health. We compared following points in Japan and England: 1) characteristics of social isolation among older adults, 2) association between social isolation and health behavior or mortality, and 3) population attributable fraction of social isolation. We used two large scale epidemiological ageing cohort data: Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES) in Japan and English Longitudinal Study of Ageing (ELSA) in England. We confirmed that social isolation among older adults was significantly associated with depressive symptoms, smoking, oral health, and mortality in both countries. Since proportion of social isolation was remarkably higher in Japan, the severe social isolation among older adults was attributed to around 18,000 premature deaths annually in Japan, in contrast with around 1,800 in England. Nationwide promotion of social participation and relationships is necessary in Japan to combat social isolation among older adults.

研究分野：社会福祉

キーワード：社会的孤立 高齢者 健康影響 社会環境要因 日英比較

1. 研究開始当初の背景

「家族やコミュニティとほとんど接触がない状態 (Townsend 1963)」を社会的孤立という。国内ではかつて 1970 年代に都市における社会関係の希薄化という文脈で注目されたが、その後、阪神淡路大震災後の孤立死、集合住宅での白骨死・腐敗死、所在不明高齢者問題、ゴミ屋敷問題、無縁社会、セルフネグレクト（自己放任）といったトピックが取り上げられる中で、再び身近な「問題」として再認識されるようになった。

近年、社会的孤立が「健康の社会的決定要因 (Social determinants of health)」の 1 つであることが明らかにされつつある。日本の高齢者約 1.2 万人を 10 年間追跡した研究では、他者との交流が週 1 回未満になると要介護リスクが、月 1 回未満になると死亡リスクが有意に上昇していた (斉藤 2015)。2010 年に発表された 148 論文を扱ったメタ分析によれば、社会的な交流の乏しさは総死亡に対して喫煙と同程度の影響力をもつことが報告されている (Holt-Lundstad 2010)。英国政府は社会的孤立や孤独による国の経済的損失が年間 320 億ポンド (約 4.9 兆円) に上ると推計し、2018 年 1 月に「孤独担当大臣」を新設した。

一方で、社会的孤立の健康への影響は、人々をとりまく医療を含む制度・政策や、婚姻の文化や近隣住民の助け合い、社会参加のしやすさなど多様な社会的決定要因が影響していると考えられるため、国による差は大きいと考えられる。政策的・実践的には国家間での社会的孤立による健康リスク (ハザード) 比の相違・多少に加えて、孤立傾向にある高齢者の割合と実数を考慮した当該社会におけるインパクトがどのように異なるのかを明らかにすることが有益だと考えられる。

2. 研究の目的

本研究では、JAGES と ELSA という日英の高齢者を対象にした大規模疫学調査データを用いて、日英間で(1)孤立状態に陥る高齢者の基本属性 (性別や年齢、教育年数や職業歴、経済状況や住環境など) に相違があるのか、(2)高齢者の社会的孤立が死亡や身体機能等の健康状態へ及ぼす影響に相違があるのか、(3) 社会的孤立によって健康喪失した高齢者数 (集団寄与危険度) はどの程度なのか等を検討する。なお、本研究では個票データを用いるため、社会的孤立を他者との交流頻度からだけでなく、Scharf index (Victor et al. 2009) や Isolation measure score (Wenger et al. 2004) など多様な指標に基づいて多面的に検討する。

3. 研究の方法

日英の高齢者を対象にした大規模疫学調査として、JAGES (日本老年学的評価研究: Japan Gerontological Evaluation Study) と、ELSA (English Longitudinal Study of Ageing) の調査データを用いて、社会的孤立が高齢者の健康に及ぼす影響と関連要因に関する国際比較研究を行った。その際に、集計値の比較ではなく、個票データに基づいて、高齢者の社会的孤立がその後の死亡や口腔ケア、喫煙、飲酒、肥満や睡眠、抑うつなどの健康指標に及ぼす影響とインパクトなどを分析した。

JAGES では、2010 年以降 3 年おきに 10 万人以上の要介護認定を受けていない高齢者を対象にした質問紙調査を実施している (Wave 1~3)。一方、ELSA は 2002 年以降 2 年おきに約 1 万人前後の高齢者を対象に調査データを蓄積している (Wave 1~8)。両調査ともに社会的孤立および多様なアウトカムに関する変数が把握されている。ELSA のデータは一般公

開されているが、本研究に際して、2019 年上半期に研究分担者らとともに、社会的孤立の操作的定義および研究デザインについて論議を重ね、渡英したうえで、University College of London にて、本分析にかかる研究打ち合わせ・意見交換を行い、文化的な背景等を考慮した変数のハーモナイゼーションを実施した。並行して、2019 年には JAGES の Wave 4 調査の一部として、社会的孤立や社会関係に関して日英比較が可能な設問を追加した質問紙調査を実施であったため、JAGES のコアメンバーとして調査全体を統括し、小坂教授および東北大学事務局メンバーを中心に質問紙作成を行った。

本研究は社会福祉学、歯科保健学、運動疫学、公衆衛生学、理学療法学など学際的かつ多様なバックグラウンドをもつメンバーで構成されている。社会的孤立がもたらす健康アウトカムは多様であるため、それぞれの専門領域から手分けをして解析を進める。考慮すべき交絡要因は多岐にわたるが、欠損データの補完方法を含めて、国際誌でも通用する標準的な統計手法を採用し、推計のバイアスを最小にする努力を最大限行なった。

4. 研究成果

本研究を通じて、8 本の論文（うち、6 本は査読付きの国際誌）を発表することができた。たとえば、2010 年から 2016 年にかけての高齢者の社会的孤立に関する推移を社会的孤立の対策先進国である英国と比較したところ、英国ではほぼ横ばいもしくは改善傾向が確認されたのに対して、日本では徐々に悪化していること、特に親戚付き合いの希薄化が顕著であること (Tsuji et al. 2020)、日英ともに社会的孤立は抑うつ傾向発生に有意な関連があるが、日本では子どもとの交流の乏しさと社会参加の乏しさが密接に関連していること (Noguchi et al. 2021)、そのほか、高齢期の口腔衛生（残歯数・義歯装着）や喫煙・禁煙とも有意な関連が認められること (Koyama et al. 2021 ; Ikeda et al. 2020)、日本社会では孤立しがちな高齢者が顕著に多いため、深刻な孤立状態による早期死亡が英国では 1800 人程度に対して、日本は年間 1.8 万人程度に及ぶこと (Saito et al. 2021) などが確認された。日本での社会的孤立対策の推進が一層必要であることを示唆するものといえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 6件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Saito Tami, Cable Noriko, Aida Jun, Shirai Kokoro, Saito Masashige, Kondo Katsunori	4. 巻 19(10)
2. 論文標題 Validation study on a Japanese version of 3-item UCLA loneliness scale among community-dwelling older adults	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Geriatrics and Gerontology International	6. 最初と最後の頁 1068-1069
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ggi.13758.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 斉藤雅茂	4. 巻 23
2. 論文標題 〔特集：中高齢者の貧困・社会的孤立〕日本の高齢者における相対的剥奪の測定と健康影響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 貧困研究	6. 最初と最後の頁 37-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Koyama Shihoko, Saito Masashige, Cable Noriko, Ikeda Takaaki Ikeda, Tsuji Taishi, Noguchi Taiji, Abbas Hazem, Miyashiro Isao, Osaka Ken, Kondo Katsunori, Richard G Watt, Aida Jun	4. 巻 227
2. 論文標題 Examining the associations between oral health and social isolation: A cross-national comparative study between Japan and England	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Social Science & Medicine	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.socscimed.2021.113895	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Noguchi Taiji, Saito Masashige, Aida Jun Aida, Cable Noriko, Tsuji Taishi, Koyama Shihoko, Ikeda Takaaki, Osaka Ken, Kondo Katsunori	4. 巻 11(3)
2. 論文標題 Association between social isolation and depression onset among older adults: A cross-national longitudinal study in England and Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMJ Open.	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1136/bmjopen-2020-045834	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Saito Masashige, Aida Jun, Cable Noriko, Zaninotto Paola, Ikeda Takaaki, Tsuji Taishi, Koyama Shihoko, Noguchi Taiji, Osaka Ken, Kondo Katsunori	4. 巻 21(2)
2. 論文標題 Cross-national comparison of social isolation and all-cause mortality among older adults: A 10-year follow-up study in England and Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Geriatrics and Gerontology International	6. 最初と最後の頁 209-214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14118	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tsuji Taishi, Saito Masashige, Ikeda Takaaki, Aida Jun, Cable Noriko, Koyama Shihoko, Noguchi Taiji, Osaka Ken, Kondo Katsunori	4. 巻 91
2. 論文標題 Change in the prevalence of social isolation among the older population from 2010 to 2016: A repeated cross-sectional comparative study of Japan and England	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2020.104237	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ikeda Takaaki, Aida Jun, Saito Masashige, Cable Noriko, Koyama Shihoko, Tsuji Taishi, Noguchi Taiji, Kondo Katsunori, Osaka Ken	4. 巻 -
2. 論文標題 Association between social isolation and smoking in Japan and England. Journal of Epidemiology	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20200138	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 斉藤雅茂	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 社会的孤立の国際比較	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神科	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 辻大士・斉藤雅茂・池田登顕・相田潤・Noriko Cable・小山史穂子・野口泰司・小坂健・近藤克則
2. 発表標題 高齢者の社会的孤立の経年推移：6年間の日英比較研究
3. 学会等名 第30回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 斉藤雅茂
2. 発表標題 社会的孤立・社会参加の実態と関連要因
3. 学会等名 第9回日本認知症予防学会学術集会（シンポジウム：社会的孤立と社会参加）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野口泰司・斉藤雅茂・相田潤・辻大士・小山史穂子・宮國康弘・池田登顕・小坂健・近藤克則
2. 発表標題 高齢者における社会的孤立が抑うつ発症に及ぼす影響についての日英比較研究：JAGES
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斉藤雅茂・相田潤・辻大士・小山史穂子・池田登顕・宮國康弘・野口泰司・小坂健
2. 発表標題 日英の大規模縦断調査に基づく高齢者の社会的孤立の特性；JAGES・ELSAの比較より
3. 学会等名 第61回日本老年社会科学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	池田 登顕 (Ikeda Takaaki) (20804917)	山形大学・医学部・助教 (11501)	
研究分担者	小山 史穂子 (Koyama Shihoko) (40779542)	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪国際がんセンター (研究所)・その他部局等・疫学統計部医員 (84409)	
研究分担者	小坂 健 (Osaka Ken) (60300935)	東北大学・歯学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	宮國 康弘 (Miyaguni Yasuhiro) (90734195)	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・老年学・社会科学 科学研究センター・研究員 (83903)	
研究分担者	辻 大士 (Tsuji Taishi) (90741976)	千葉大学・予防医学センター・特任助教 (12501)	
研究分担者	相田 潤 (Aida Jun) (80463777)	東北大学・歯学研究科・准教授 (11301)	
研究分担者	野口 泰司 (Noguchi Taiji) (40844981)	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・老年学・社会科学 科学研究センター・研究員 (83903)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------